



発行 青森県立弘前工業高等学校 後援会 弘前市馬屋町6の2 TEL 32-6241 印刷 やまと印刷(株)

令和7年度 青森県高等学校総合 体育大会 ボウリング競技 学校対抗 優勝



文部科学大臣杯 第32回全国高等学校対抗 ボウリング選手権大会県予選 二人チーム戦 優勝 (全国大会 第4位)



後援会理事長 船水 信義

会員の皆様には、ますますご清祥のことと存じます。

私は、昭和四十五年三月に本校工業科を卒業して以来、五十五年の歳月を重ね、本年七十四歳を迎えるに至りました。

我母校の弘前工業高校は、史跡の弘前城を背屏風とした歴史空間と共生している唯一無二の高等学校だと私は解しています。

学校の立地、利便性、環境など申し分ない時空間ゆえに、私は在学中ひらすらにその居心地の良さに甘えて、自らを發表せず、三年間つがなく過ごしたという想い出が残っています。漫然と過ごせた三年間とはいえ、無難な学校生活を送れたのも、親兄弟、クラスメート、校長先生を初めとする先生方、職員の方々の支えてくれた「御陰」だと思っています。引いては今日に於いて、私が存在するにつながったこの「有難み」です。この年になって、「御陰」さま



校長 工藤 和樹

後援会の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃から本校の教育活動の充実や教育環境の整備、部活動の支援を含む活性化事業に格段のご支援を賜り、心より感謝申し上げます。

また、創立百十五年を迎えた本校において、通常の学習活動を送ることができておられますと共に、皆様方の激励やご協力のおかげながら年度末を迎えることができました。誠に、重ねて感謝申し上げます。

さて、本校の生徒たちは、今年度も様々な分野で目覚ましい活躍を見せてくれました。本会報の「弘工生の活躍」には、今年の高校総体や各種コンテストなど、生徒たちの部活動や課外活動の様子を詳しく掲載しておりますので、ぜひそちらもご覧ください。ここでは、その一部をご紹介します。

と「有難み」とは同化の関係にあることに気づきました。

今、私は社会に存在したという証しに、「工」と「業」を表現した屋形(学びの館)の運営に取組んでいます。この有難みを持統的に発表することが、お世話になった学校への恩返しの一つだと考えています。

「工、ひと、人」をテーマとした屋形を津軽修学館と名づけました。

昔の事や古い物などを調べ直し、そこから得られた発見や知識などを、今の事柄や物事に活かす。そこから新しいものを見つけて出す意の「故きを温ねて新しきを知る」ための時空間です。

「子は親の背中を見て育つ」「大志は先生を見て抱く」いずれも生活と人生の指針だと思っています。

私が生徒諸君に願うことは「二日も早く自分を信じて」ことです。このことが引いては自信となり安定した思考のもとに目標に向かってチャレンジし、手ごたえのある生活が送れることにつながると考えています。

そのためには、「理論」と「現場」の呼吸を合わせることが大事と考えています。理論とは思考の組み立てのことであり、現場とは組み立てられた思考の具現、実践のことです。これは学びや学業でも運動やスポーツでもボクシング部が、県高校総体でライト級第一位。また、女子の部は、フライ級で第一位(東北大会でも第一位)でした。バレーボール部は、県高校総体優勝、第七十八回全日本バレーボール高等学校選手権大会青森県代表決定戦でも優勝し、六年連続四十六度目の全国大会出場しました。ボウリング部も県高校総体で学校対抗戦及び男子二人チーム戦で第一位でした。興味深いことに、全国大会出場や県内一位となった部活動の中には「バ」行から始まるものが多く見受けられました。

文化部では、放送部がNHK杯全国高校放送コンテストへ、美術部が第四十九回全国高等学校総合文化祭に参加しております。工業科においても、多くの生徒が情報通信関係の資格を取得した功績が認められ、令和七年度「電波の日情報通信月間」記念式典において、総務省東北総合通信局から表彰されました。これは、本校の専門教育が社会から高く評価されている証であり、大変喜ばしい限りです。また、建築科では、弘前市立観光館の広場に展示してあるミニチュア建造物の一つである「かくは宮川デパート」の修復を終え、元の展示場所に設置し、地元弘前市に貢献しております。

も人の動きの伴うものごと全般の根底として存在しているものと私は感じています。

私は、この考え方をもとに家屋三棟の雪片付けを手作業で行っています。自らの体調、天候の状況、雪質、役所の除雪車の動きなどを予見し、最小限の労力で前面道路との出入りを確保、敷地内では太陽の光、温度、風雨などを予測し、学生時代に実習で使った「曲尺」の論で雪の表面積を増やして、消雪の効率化を図っています。

学校で学んだ事柄は、いずれ人生の中で役に立つものだと思っています。学生諸君は、本校の歴史と伝統を受け継ぎながら、今日から明日への人づくりを目指して学業や部活動、資格の取得などに励んでいただきたいと思っています。

そのために必要な環境の整備や支援を引きつづき積極的に実施してまいりますので、会員の皆さま方には、変わらぬご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、校長先生をはじめとして教頭先生、担当の先生方、事務局職員の方々は、日々、生徒の教育指導にご尽力されておりまして、誠にありがとうございます。感謝と御礼申し上げます。さらに父母と教師の会、同窓会の皆様方にも、その活動に敬意を表する次第です。

台湾交流も引き続き行われ、台湾の大安高級工業職業学校へ訪問してきました。そこでは、両校の生徒が学校の状況を英語で説明したり、本校生徒が授業に参加したりと、同じ工業を学ぶ生徒として積極的に交流している姿にとても感心しました。交流の場ではスマホの翻訳機能を活用して交流を深めたりしている姿が見受けられました。時代は遙かに進んでいるのだと実感するとともに、ドラえもん「翻訳こんにやく」も夢ではなくなる日が近づいているのかなと感じました。

このように生徒が多方面で活躍し、多くの成果を取ることができるよう、日頃からお寄せいただく後援会のご理解とご支援の賜物と感謝しております。結びになりますが、生徒たちは歴史と伝統を受け継ぎながら、未来へ向けたさらなる発展を目指して学業や部活動、資格取得等に励んでおります。今後、生徒たちが新しい時代を主体的に切り拓く力を身に付けられるよう、職員一同、一致協力して指導にあたってまいります。後援会の皆様には、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

弘工生の活躍

春季大会

○バレーボール部

青森県高等学校春季バレーボール選手権大会

優勝 弘前工業高等学校

○ボクシング部

青森県高等学校春季ボクシング選手権大会

兼第54回宗像旗争奪戦兼第19回吉田杯争奪戦

学校対抗 第2位 青森県立弘前工業高等学校

男子1部

ミドル級 第2位 今井 峰海

ライトウェルター級第2位 古川 瑛斗

バンタム級 第3位 渡邊 成世

男子2部

ライトウェルター級第1位 堀川 侃聖

女子

ライトフライ級 第1位 小林瑠奏子

○陸上競技部

第51回青森県春季陸上競技選手権大会

ジュニアB男子円盤投(1.5kg)

第2位 石田 翔大

第4位 古川 生侑

○バドミントン部

令和7年度青森県高等学校春季バドミントン大会

男子学校対抗

第3位 弘前工業高等学校

○ボウリング部

青森県春季ボウリング選手権大会兼

第24回東北高校生ボウリング選手権大会

青森県予選会

男子学校対抗 第3位 弘前工業高等学校

2人チーム戦 第2位 富澤 蒼空

○登山部

登山個人読図

優秀賞 須藤 利方

登山個人読図

優秀賞 大塚 歩武

令和7年度青森県高等学校春季テニス選手権大会

男子ダブルス

ベスト4

軟式野球部

県春季大会

準優勝 弘前工業高等学校

高校総体

バレーボール部

バドミントン部

新体操部

ボクシング部

登山部

ボウリング部

柔道部

その他

個人戦

佐藤 愛羅

富澤 蒼空

佐藤 愛羅

須藤 利方

大塚 歩武

平山 翔太

三浦淳之介

三浦淳之介

三浦淳之介

三浦淳之介

○テニス部

男子ダブルス

ベスト4 平山 翔太

三浦淳之介

○軟式野球部

第2位 弘前工業高等学校

三浦淳之介

○軟式野球部

第七十回全国高等学校軟式野球選手権青森大会

優勝 弘前工業高等学校

三浦淳之介

○テニス部

高体連テニス専門部 夏季団体戦

男子団体4人制の部

第3位 弘前工業高等学校

三浦淳之介

○バドミントン部

令和7年度秋季青森県高等学校軟式野球選手権大会兼

第37回秋季東北地区高等学校軟式野球大会

青森県予選会

第2位 弘前工業高等学校

三浦淳之介

○柔道部

青森県高等学校新人柔道大会

第3位 弘前工業高等学校

三浦淳之介



男子団体 第3位 弘前工業高等学校
男子無段の部

73 kg超級 第2位 古川 碧叶
男子個人 90 kg級 第3位 佐藤 祐太
90 kg級 第3位 駒井敬太郎
60 kg級 第3位 齋藤 天斗

○ボウリング部

第24回青森県高等学校新人ボウリング選手権大会兼
第29回全国高等学校ボウリング選手権大会兼
沖縄大会 青森県予選会

学校対抗戦 第1位 弘前工業高等学校
2人チーム戦 第2位 佐藤 愛羅
第5位 菊池 康介
第5位 西村 凱智

○ボクシング部

男子個人戦
令和7年度青森県高等学校秋季ボクシング
選手権大会兼 佐藤光博旗・野澤武杯争奪戦

男子1部
ピン級 第1位 古川京太郎
ライトウェルター級 第2位 山田 隼勢
ウェルター1級 第3位 堀川 侃璽

男子2部
ライト級 第1位 高田 駿
バンタム級 第2位 山本兼太郎
優秀新人賞 高田 駿

○弓道部

第25回東日本高等学校弓道大会青森県最終予選会
男子団体 第2位 弘前工業高等学校
ライト級 第1位 行方 星衣

東北大会・全国大会

○バレーボール部

令和7年度東北高等学校バレーボール選手権大会兼
NHK杯大会
出場 弘前工業高等学校

全国高等学校総合体育大会バレーボール競技
出場 弘前工業高等学校

第78回全日本バレーボール高等学校選手権大会
出場 弘前工業高等学校

○ボクシング部

令和7年度東北高等学校選手権大会
ボクシング競技
女子フライ級 第1位 小林瑠奏子

○ボウリング部

第24回東北高校生ボウリング選手権大会
男子個人 第2位 佐藤 愛羅
第9位 富澤 蒼空

JOCジュニアオリンピックカップ 第49回
全日本高校ボウリング選手権大会
ハイゲーム賞 富澤 蒼空

文部科学大臣杯 第32回全国高等学校対抗
ボウリング選手権大会 第4位 弘前工業高等学校

第29回全国高等学校ボウリング選手権大会
沖縄大会
出場 弘前工業高等学校
佐藤 愛羅

○弓道部

第25回東日本高等学校弓道大会水戸大会
男子団体 出場

○新体操部

第54回東北高等学校体操競技・新体操選手権大会
団体 第6位 弘前工業高等学校

文化部・工業科の大会

○放送部

令和7年度青森県高等学校放送コンテスト兼
第72回NHK杯全国高校放送コンテスト
青森県予選会
アナウンス部門 入選 神 遥斗
ラジオドキュメント部門 第2位 弘前工業高等学校

ラジオ番組部門
「青春の味」(全国大会推薦)
青森県高等学校総合文化祭放送部門大会

ラジオ番組部門
優秀賞 「吾輩も猫である」(東北大会推薦)
優良賞 「弘工調査隊、大鰐町を調査せよ」

青森県高等学校キャンペーン作品コンテスト
ラジオキャンペーン部門
第1位 「ユウトです」
第5位 「ドラフト会議」

東北高等学校放送コンテスト
ラジオキャンペーン部門
優良賞 「こたえはいくつ?」

令和7年度第49回全国高等学校総合文化祭
美術・工業部門 出展 E3 一戸 優真

○美術部

第16回高校生の「建築甲子園」県大会
優勝 A3 福寿 紗璃

令和7年度高校生ものづくりコンテスト
青森県大会
木材加工部門 第3位 A2 相馬 珀來

第20回若年者ものづくり競技大会
ロボットソフト組込み職種
敢闘賞 弘前工業高等学校
D3 下村 美桜
D3 三浦 月惟

ITネットワークシステム管理職種
敢闘賞 D3 坂本 夕弦
グラフィックデザイン職種 出場
D3 佐々木優夏



第16回国際イノベーションコンテスト (ICAN'25) 国内予選大会

国内最終予選

第4位 弘前工業高等学校
D3 吉田 翔悟
D2 小山内啓悟
DR7卒 高木 慈永
DR7卒 佐川 天星
DR7卒 鳥居凜太郎



バレーボール部

「春高に向けて」

機械科三年 伊東 莉凰

私たちバレーボール部は、インターハイと国スポで目標の全国ベスト8を達成することができず、全国大会で勝ち切ることを大変さを痛感しました。その悔しさをバネに今以上に厳しく練習に取り組み、一月に行われる「全日本バレーボール高等学校選手権大会」に出場します。本戦では、一回戦に佐賀県代表の佐賀学園高等学校と対戦します。相手の対策をしっかりと、チーム全員で気負わずに戦っていきたくです。また、今年は全国大会で良いバレーができず、結果が出ていないので、三年生最後の大会を悔い無く楽しんで試合に臨みたいのです。

私たちがここまで頑張ることができたのは、指導にあたってくださった春藤先生、たくさん応援してくれた友人や先生方、支えてくれた家族とOBの方々ののおかげだと心から思っています。本当にありがとうがございます。支えてくださった全ての方々への感謝の気持ちを忘れずに、結果で恩返しできるように精一杯頑張っていきたいです。



後輩たちには、青森で国スポが開かれるので感謝の気持ちと県代表という自覚を忘れずに楽しんでプレーしてほしいです。これからバレーボール部の応援をよろしくお願いします。

ボウリング部

「高校総体優勝!!」

機械科三年 三上 偉典

私たちは、五月三十一日から二日間、弘前ファミリィボウルで行われた第七十八回青森県高等学校総合体育大会ボウリング競技に出場しました。この大会は、多くの三年生にとって高校生活最後となる大切な大会です。会場では、各校の選手一人ひとりの真剣な思いがひしひしと伝わってきました。

大会は、二日間で個人戦、二人チーム戦、学校対抗戦が行われました。個人戦では、三人が決勝戦に進出し、それぞれが第三位、五位、六位に入賞することができました。二人チーム戦では、Bチームは惜しくも入賞を逃しましたが、Aチームが見事に一位を獲得することができました。さらに学校対抗戦では、四人全員がお互いのミスをカバーし合いながら、最後まで集中力を切らさずに最後まで戦った結果、優勝することができました。

私たちは、他校に比べて三年生が少なく、不利な状況でもありました。しかし、一年生が大きなプレッシャーにも負けることなく、三年生にも劣らない活躍を見せてくれたことで、チームとして最高の結果を残すことができました。高校生活最後の大会で優勝できたことは、大きな自信となり、悔いのない締めくくりとなりました。

今後の大会では、全国大会、連覇がかかっている大会もある中で、一、二年生には今後も頑張ってください。



ボクシング部

「インターハイに出場して」

土木科三年 福土 璃人

私にとってインターハイは、高校生活の中で大きな目標でした。ボクシングを始めた頃は、全国大会に出場できるとは、自分でも想像していませんでした。

しかし、毎日の厳しい練習を積み重ねていくことに全国の舞台に立ちたいと思うようになり、努力し続けました。

インターハイの会場に足を踏み入れた瞬間、全国から集まった選手たちの気迫と緊張感に圧倒されました。リングに上がると直前は強い不安を感じましたが、これが直前まで支えてくれた人たちの存在を思い出し、全力を尽くそうと気持ちを切り替えました。試合では、思い通りにいかない場面も多く、全国のレベルの高さを痛感しましたが、最後まで諦めずに戦い抜くことができました。

結果は、満足のいくものではありませんでしたが、インターハイに出場できたことは、私にとって大きな自信になりました。この経験を通過し、努力を継続することの大切さや、周囲の方々への感謝の気持ちを改めて学びました。今回の経験を今後の人生に生かし、さらに成長できるように努力していきたいです。



美術部

「全国大会を通して」

電気科三年 一戸 優真

七月二十六日、私は香川県高松市で行われた全国高等学校総合文化祭に参加しました。本大会を通して私は二つの点で成長を感じました。一つ目は、コツコツと努力する点です。私の絵の大きさはA3(297x420mm)のB1のタテで描くものでも大変でした。部活動を休まず、夏休みなどの長期休みの間も学校へ出て、少しずつ描いていきました。また、私が描いたトンボという作品は、眼を特徴的に描きかけたので、赤色や白色などを使って強調させて描くことができました。トンボに電球から出る光の部分を取って直線で描きました。他の線は、曲線なので直線で描くことで、より電球が光っているのを視覚的にわかりやすく表現することができました。またトンボの背景は、春、夏、秋の三つの季節を表しました。

二つ目は、コミュニケーション能力です。全国大会の交流会では、香川県の郷土玩具の張子を製作しました。張子を製作しながら、他県の高校生たちとコミュニケーションをとり、芸術に対する関心をより一層高め、自分の見聞を広めることができました。

この大会を通して成長できたところを高専を卒業してからもいかして頑張りたいと思います。



工業科

「iCANに参加して」

情報技術科三年 吉田 翔悟

私は、四月に仙台で行われた「国際イノベーションコンテスト国内予選」に参加しました。いつか高校でこのようなコンテストに参加してみたいと思っていたので、出場することができてとても嬉しかったです。

私たちのチームでは、トイレレットペーパーの使用量を節約するためのデバイス「トイレの神様パーパーくん」を開発しました。私は、このデバイスのデータ転送の仕組みと完成させるためのプログラミングを担当しました。実際にデバイスと連携したプログラムを記述した経験があまり無かったため、様々な問題が出てきました。それらを解決して乗り越えて完成できた時は、とても達成感を得たのと同時に、自分自身が成長できたと思いました。

また、私は大会本番でのプレゼンテーションも主担当でした。人と話すことは大好きなのですが、人前でも何かを話す・発表するとなると、かなり緊張し、手足が震えたりしてしまいます。加えてノー原稿でプレゼンテーションを行わなければいけないため、本番はもろろんのこと、これまでの練習でも緊張しまくりました。

大会本番は、多少早口になったり、噛んだりしてしまいましたが、ペストを尽くすことができました。また、デバイスの内容も評価され、16チーム中四位でした。私と二年の啓悟君だけ高校生で、それ以外が全員大学生か高専四、五年生だったので、その中で入賞できたことは、とても嬉しかったです。世界大会まであと一歩ということこ

特別寄稿

「老桜」



土木科 工藤 裕 (58年卒)

十二月五日に突然、後援会会報の特別寄稿の原稿依頼がありまして驚いています。後援会には競技大会やコンテスト補助など教育指導面でご協力ご支援をいただきまして感謝申し上げます。弘前工が創立百十五年を迎えて、歴史と伝統の本校において後援会の役割の重要性を感じているところです。

本校に赴任して、校内にある桜を見るのが密かに楽しみでした。あの立派な桜が本校の歴史をすべて知っているはず。

さて、私ごとで恐縮ですが、高校から教員生活までの十五年間は苦しくも楽しい時間でありました。学生時代、学生服の肘が破れて母親に怒られて、縫ってもらったのを記憶しています。学校生活は友人にも恵まれ、勉学に勤しんだことはしっかりと覚えていきます。

早いもので赴任から八か月が過ぎようとしております。他校で還暦を迎えて来年度どうしようかと考えた

とき、校歌の「大津軽野の：」生徒はどうしているだろうか。どんな生徒だろうかと考えて母校に転動願いをしました。平成十九年度に弘前工を後にして、十八年ぶりに母校に赴任しましたが、玄関前の光景や食堂など少しずつ変化が見受けられました。私が在職していた頃は、今の校舎ができるまでの仮設校舎の生活で、夏場の学校生活が大変でした。旧校舎の配置や学生として学んだ昔の校舎配置を知っているため、今の校舎内を移動するたびに当時の思い出と生徒の気力旺盛な状況が浮かんできます。当時は、学生帽をかぶつての登校で、野球部、バレー部員は学び舎に一礼して登校していることを憶えています。いつの時代も母校に対する尊敬の念は抱き続けたいものです。母校でご協力、ご支援をいただきましたので、残りの教員生活で恩返しをできればと考えております。

最後に、万葉集に、「春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる」と年号の「令和の意味」が書かれております。そのような生徒づくりに力を注ぎたいと思いますので、後援会はじめ役員の皆様には今後とも、ご支援、ご鞭撻をお願いするところです。

歴史ある会報に拙文を掲載していただく機会を与えてくださったことに感謝いたします。

後援会 事業報告

- 一 施設設備維持管理
 - (1) 運動場の整備
 - (2) 建造物(黄鷹寮・山の家・食堂・弘工会館)の管理・運営
 - (3) 教育機器の整備
 - (4) 車両(トラック)の管理
- 二 部活動の後援
 - (1) 各種大会の引率者への旅費支給
 - (2) 強化費の支給
- 三 生徒・職員の福利厚生
 - (1) 食堂の運営
- 四 職員研修の助成

後援会 評議員会

令和七年度後援会評議員会は、四月二十二日(火)午後五時三十分より、本校会議室にて開催されました。船水信義理事長の挨拶に続き、工藤和樹校長から挨拶を頂き、その後議事に入りました。議事では、令和六年度庶務報告・事業報告が承認され、続いて木村監事から監査報告があり、会計決算報告が承認されました。

後援会 役員名簿

役員改選では、新理事にPTA会長の工藤郁代氏、新監事にはPTA監事の築館賢氏が選出されました。

理事長	船水 信義	評議員(学校職員)	庭田 浩之・鎌田 昌文
副理事長	同窓会相談役	川村 眞一・齋藤 昭	相馬武富士・亀島 央
理事	同窓会会長	佐藤 信隆・笹原 誠	武田 太郎・安田 清人
	同窓会前会長	竹内 初男・浅利 能之	片桐 拓・三澤 直
	同窓会副会長	高橋 和雄・丸谷 浩基	三戸 美英
	同窓会東京支部長	境 丈克	五十嵐治男・神 真波
校 長	工藤 和樹	小山内一雅・川嶋 史隆	岡田 俊治・今井 直樹
参 与	藤田喜代一	清野真由美・成田 学	齋藤 幸喜
監 事	元PTA会長 佐々木秀美	境 丈克	
	同窓会監事	評議員会(学識経験者)	
	PTA監事	川村 眞一・齋藤 昭	
	学校監事	佐藤 信隆・笹原 誠	
	村上 大	竹内 初男・浅利 能之	
	評議員(P.T.A.関係)	高橋 和雄・丸谷 浩基	
	佐藤 進治・斉藤 義晃	庭田 浩之・鎌田 昌文	
	安田 良松・小野 俊輔	相馬武富士・亀島 央	
	富沢 史織・山本 信夫	武田 太郎・安田 清人	
	三浦留史子・花田 邦彦	片桐 拓・三澤 直	
	三上 健司・浜田 真悦	三戸 美英	
	唐牛千栄子・長尾 卓正	五十嵐治男・神 真波	
	唐牛千栄子・長尾 卓正	岡田 俊治・今井 直樹	

また、令和七年度の事業計画や予算案が承認されました。

